

特集

「天気も宇宙も！ まるわかり空の図鑑」について

武田康男（空の探検家）

「天気も宇宙も！ まるわかり空の図鑑」(エムディエヌコーポレーション)を2023年8月に出版した。空をテーマにして、気象と天文の両方の内容を、写真と図をたくさん使って、小学生から読めるように総ルビで解説した。

本屋で天文と気象のコーナーが分けられ、教科書の内容や学会なども分かれていて、異なる研究分野であるが、一般の人たちは空に見られる現象としてあまり区別していない。天文台に大気現象の問い合わせがあったり、気象予報士が流星群や月食などの解説を行ったりしている。

大気中で起こる流星は天文で、オーロラも太陽活動に関係しているが、それに近い高度の大気光などは天文で扱わないだろう。スプライトに関しては雷雲と関わっている。また、気象はふつう対流圏内を扱い、超高層大気に関しては大学や極地研究所など地球物理の分野で研究されている。

私は天文と気象のどちらも興味があり、高校で地学を教えたり、南極観測隊の経験もあり、それぞれの写真や動画を撮影している。フリーの仕事としては、天体観察会もやっているが、気象予報士の資格を使った気象分野の仕事が多い。マスコミなどでは「空」というくくりで両方に関わっている。昼も夜も空を楽しもうというツアーの解説も行っている。

そうしたことを出版社の編集者が感じて、この本の企画をつくってくれた。編集者も私が高校で地学を教えた卒業生で、たいへんなイラストも別の卒業生が描いてくれて、地学に天文と気象が入っていたのがよかった。

天文の人が気象予報士の資格を取得したり、気象予報士が天文のことに詳しくなったりすると、一般の人たちとのつながりが広がるのではと思っている。

この本の最大の特徴は、地面から大気圏の現象や各種天体（138億光年まで）を、大きな差し込みのイラスト図にしたことである。

あとがき

2023年12月6日の関東支部会において、武田さんが本を出版されたきっかけについて、お話をいただきました。

ご本人は本の宣伝になってはとご遠慮なさっておりましたが、「何故このようなタイトルになったのか」など、天文普及とはどの視点でお話をくださりました。

天文普及のためには、市民の皆さんがどのように天空を捉えているのかは、重要な視点であると私も考えます。天文を普及する立場の者とそれを受け取る方々の差異を知ることはとても大事だと改めて感じた次第です。

武田さんが、お話された視点についてまとめていただきましたので、それをそのまま、今回の関東支部特集として、掲載させていただきます。

関東支部長 飯塚礼子